

## I 目的

教育活動や学校運営、学校生活についてアンケートによる評価を行い、結果を改善に生かす。

## II アンケート実施期間

令和5年12月

## III アンケート対象者と回答率

- (1) 対象者 生徒819名 保護者819名(生徒数) 職員53名(県職のみ)  
 (2) 回答率 生徒85.9%(+1.2) 保護者74.3%(+8.8) 職員100%(+2.0) ( )は前年度比

## IV アンケート方法

- (1) Forms で回答  
 (2) 各質問項目を「大変よい(A評価)」「よい(B評価)」「あまりよくない(C評価)」「よくない(D評価)」の4段階で回答する。(A及びB評価を肯定的評価とする)

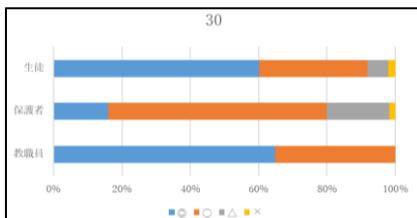
## V 結果と考察

生徒・保護者・職員のそれぞれの回答の割合を比較し、傾向や特徴等からの考察を以下に載せる。

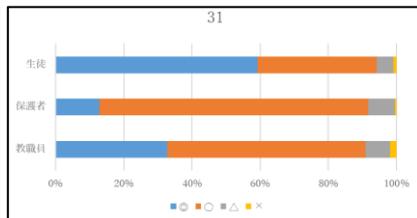
### 1. 学校生活について

- ・挨拶については、生徒の「肯定的評価」が93%に対し、保護者は79%と14ポイント低い。これは、校外で生徒から挨拶される場面が少ないという実態が推察できる。校内では、体育祭期間に高まる挨拶への意識が、通年での取り組みになりきれていない。次年度以降、生徒会や委員会の取り組みとして定着させたい。
- ・職員への質問は「自ら範を示し、生徒が挨拶しやすい環境づくりに努めているか」であり、職員から挨拶する状況は、昨年度より2ポイント上昇した。次年度以降も、率先垂範の姿勢を維持したい。
- ・清掃への取り組みは、生徒、保護者、教職員とも肯定的評価が高い。今年度、週3回の清掃になったが、清掃のない日には、日直や環境美化委員が簡易清掃を行うなど、環境維持に努めている。
- ・生徒の活発な歌声は、肯定的評価が93%と高く、日頃の取り組みからも納得できる。職員のA評価が低いのが、質問項目は「生徒が積極的に取り組めるように指導しているか」である。これは、教師が前面に出て指導しなくても、生徒主体で活動ができているという望ましい状況であるといえる。

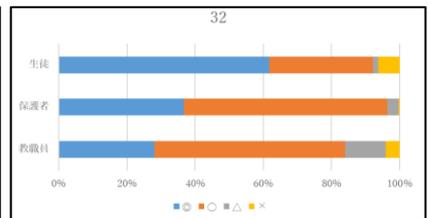
【挨拶】



【清掃】

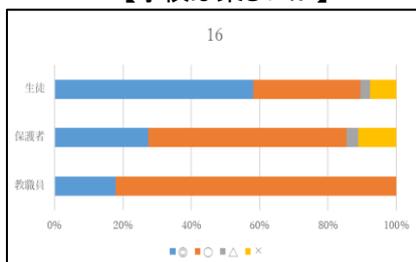


【歌声】

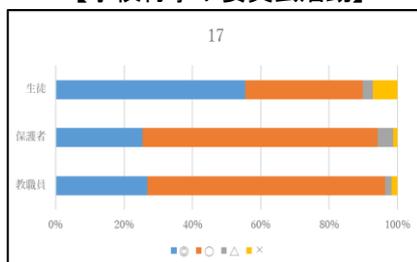


- ・「学校は楽しいか」に対し、91%の生徒が肯定的評価だが、9%の生徒が否定的評価である。学習へのつまづきをはじめ、否定的な回答には様々な要因が考えられる。「誰一人取り残さない」教育活動を展開する必要がある。
- ・生徒の学校行事や委員会活動への肯定的評価は91%と高い。次年度以降も、多くの生徒が責任とやりがいを感じ、自己肯定感を高められるような活躍の場を見出していきたい。
- ・「思いやりの心で友達に接しているか」の生徒の肯定的評価は97%である。相手の気持ちや立場になって考えられる優しい生徒が多い。ただし、気を遣いすぎて自分の言葉で言いたいことが言えない状況が懸念される。

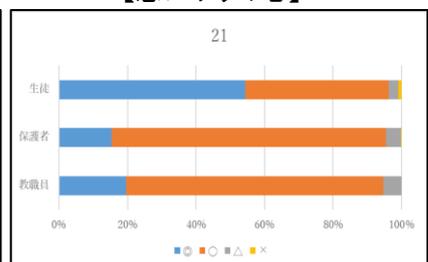
【学校は楽しいか】



【学校行事や委員会活動】



【思いやりの心】



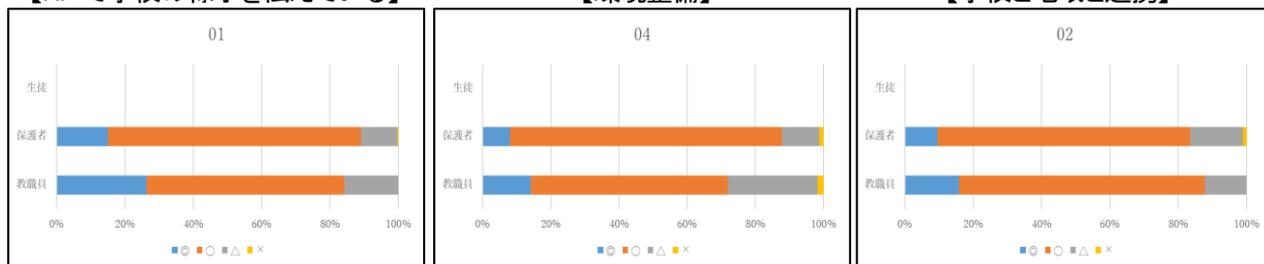
## 2. 学校運営について

- 学校の様子は、学年、学級だよりを通じて情報発信できている。今後も、ホームページや新たな連絡ツール（スクリーンアプリ）を活用して、より一層分かりやすく学校や生徒の様子を伝えていきたい。なお、学年だよりは発行回数を厳選しつつ、各学年の月予定等の情報は、スクリーンアプリで随時伝えるように工夫していく。
- 環境整備への肯定的評価は、保護者が87%に対し、教師は71%にとどまっている。日々の授業や教育活動に支障がないように、教育機器等の充実や校舎・施設の修繕等に努めていく。
- 家庭や地域との連携は、肯定的評価が保護者83%、教職員87%と、共に8割を越えている。今後も、保護者や地域と連携し、ボランティア活動等で協力を得られるように努めたい。

【HPで学校の様子を伝えている】

【環境整備】

【学校と地域と連携】



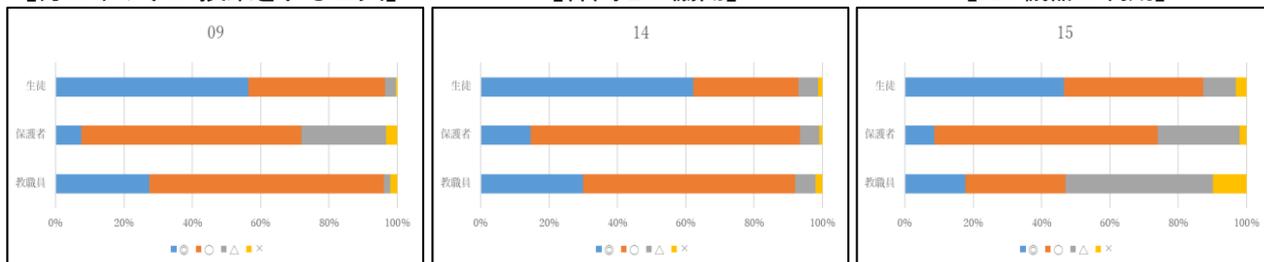
## 3. 学習指導について

- 「分かりやすい授業」では、生徒と教職員の肯定的評価がともに95%以上と高かったが、保護者の約3割は評価が低い。その一因として、保護者が授業を参観して判断しているというよりも、テストの点数や評定に対する思いがこの数字に表れていると思われる。その分、教職員は到達度テストや通知票の成績で学力の向上を可視化できるよう授業改善に努め、保護者に信頼を得ていく必要がある。
- 「クラスやグループの仲間と協力して授業に取り組む」ことに肯定的評価の生徒が93%と高く、A評価は教職員の2倍以上を占めている。学び合いのスタイルは定着しているため、さらに学力向上につなげていく必要がある。
- 「ICT機器を利用した授業は分かりやすい」と回答している生徒は87%と多いが、教職員が授業内でICT機器を積極的に活用できているかについて、教職員の自己評価は50%程度に留まっている。教職員に対する複数回にわたるICT機器の活用研修の実施や、教材研究に取り組む時間の確保が課題である。

【分かりやすい授業をする工夫】

【仲間との協働】

【ICT機器の利用】



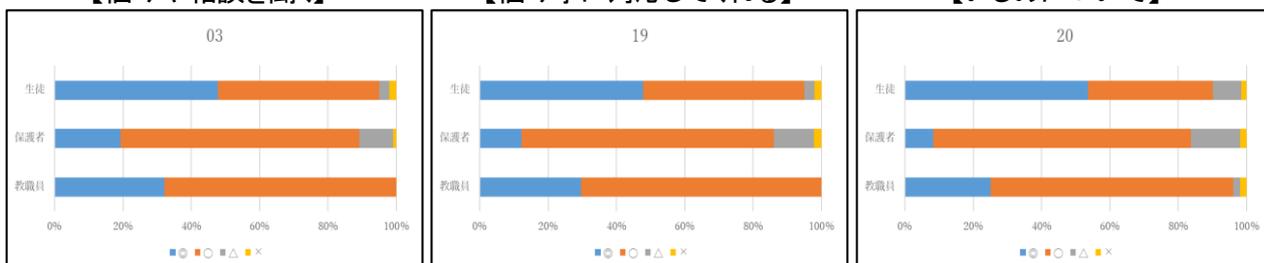
## 4. 生徒指導について

- 「先生は、悩みや相談を真剣に聞いてくれる、真剣に対応してくれる」は、生徒が94%で保護者は86%である。今後も生徒と向き合う時間を確保し、信頼関係を大切にし、保護者とも連携協力をより一層重視していく。
- 92%の生徒が、「好ましい人間関係づくり」に肯定的評価である。しかし、A評価のみに着目すると、生徒（子ども）と保護者・教職員（大人）の割合に差がある。教育活動全般にわたる道徳教育の充実が求められる。
- 「いじめのない学校づくり」への取り組みについて、生徒の肯定的評価は昨年度の78%から91%に上がっている。いじめのない学校づくりのため、市教委や外部機関と連携しながら、さらに学校全体で未然防止、早期発見・対応に努める。

【悩みや相談を聞く】

【悩み事に対応してくれる】

【いじめについて】



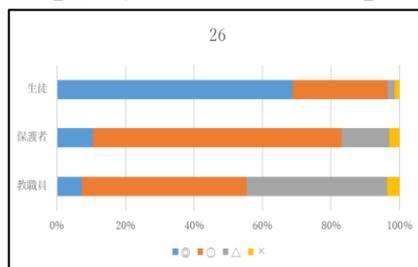
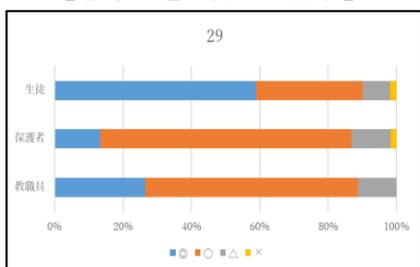
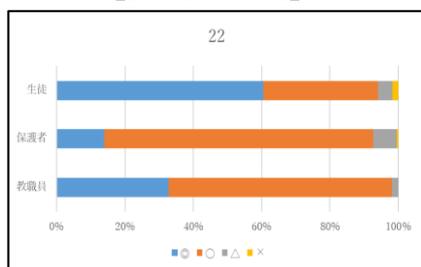
## 5. 健康・安全面について

- ・「安全に気をつけた生活」は、生徒・保護者ともに肯定的評価が高い。保護者のA評価をさらに引き上げたい。
  - ・感染症対策は、90%の生徒が肯定的である。保護者の協力も得られている。今年度、新型コロナが5類に移行したことで学習や行事への取り組みもコロナ禍前に戻りつつあるが、時期によりインフルエンザ等の感染拡大防止に努める必要がある。部活動や行事等が中止・延期にならないよう注意していきたい。
  - ・「登下校の交通マナーや社会のルールを守る」について、生徒は97%、保護者は82%が肯定的である。しかし、通学路の歩き方、自転車の乗り方等について、地域から何度も指摘を受けている。また、校内でも狭い廊下を横に広がって歩いたり、職員室や校長室前を大声で話しながら通ったりする生徒もいる。「教室は社会とつながっている」という意識を持ち、まずは校内のルールやマナーを意識させることが重要である。
- また、2年前から保護者のボランティアでパトロールや挨拶運動を行っている。これからも継続して安全を見守り、さらには、生徒会や委員会の活動と絡めながら、生徒がマナーやルールを身に付けられるようにしていきたい。

【安全について】

【感染症を意識した生活】

【登下校のマナーについて】



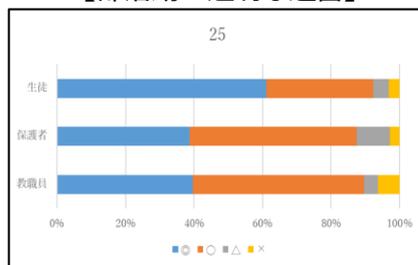
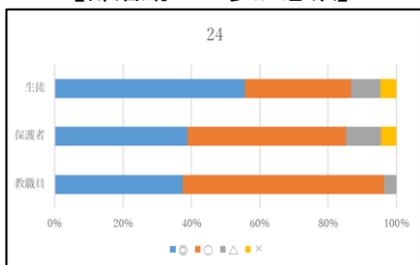
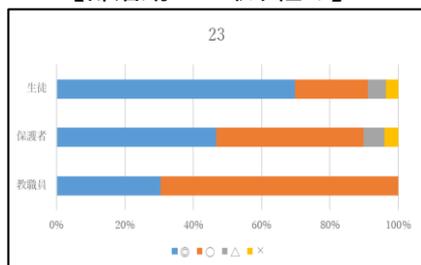
## 6. 部活動への取り組み・部活動の運営について

- ・「部活動への積極的な取り組み」は、生徒・保護者ともに90%を越えているが、「参加を楽しみにしている」については、若干その数が減っている。これは、すべての部活動・部員にとって活動が充実したものになっているのか、という疑問の提起とも捉えられる。活動時間や内容・方法等、我孫子市の部活動ガイドラインに沿って、部活動を見直すとともに、適切な運営を心がける必要がある。このことは、顧問を担当する教職員の負担軽減という視点からも、進めていかなければならない。

【部活動への取り組み】

【部活動への参加意欲】

【部活動の適切な運営】



## 7. 小中一貫教育・特別支援教育について

- ・小中一貫教育グランドデザインの掲載は、周知が十分といえない。保護者への積極的な広報活動を進めていく。
- ・新入生保護者説明会や小中一貫の日の取り組みは、80%以上の肯定的評価である。
- ・登校支援教室の充実や教職員間での連携は、昨年とほぼ同じ割合になっている。次年度以降も、授業等を担当する教職員の負担を軽減しつつ、登校支援教室の運営に当たっていく。
- ・支援を必要とする生徒に特別な配慮をして授業をしている教員は90%を越える。次年度、研究指定のまとめとしてユニバーサルデザインの視点を全職員で足並み揃えて実践する。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、「誰一人取り残さない」という理念を達成する授業を全教職員が目指していく。

【新入生保護者説明会や小中一貫の日の充実】

【登校支援教室の充実や職員間の連携】

【支援が必要な生徒に特別な配慮を心がけた授業】

